

1. Java と C++ の違いを調べてみましょう

	Java	C++
言語の歴史	組み込みシステム上でネットワークコンピューティングをサポートするために開発された。Java は移植性があり、セキュアであり、マルチスレッド対応であり、分散であり、そして C++ よりも単純 (simple) になるように設計された。	C 言語の派生規格であり、手続き型プログラミング言語にクラス (抽象データ型) を導入し、静的型付けオブジェクト指向プログラミングを実現するために開発された
安全性	他の言語と比較すると多くの優れた機能と組み込みツールがあるため安全 (脆弱性も報告されている様子)	他のオブジェクト指向言語に比べてコードの実行効率や柔軟性を重視している反面、安全性は犠牲になっている
C 言語と互換性	Java と互換性のある言語はない	C と互換性があるため同時に使える
実行/起動速度	アプリケーション起動時に大量のクラスを読み込むため、C++ に比べて起動速度が遅くなってしまう	C++ は Java に比べて実行速度が速い
共通点	オブジェクト指向型 (= 開発効率を高める考え方) のプログラミング言語である スマホアプリや業務支援システムなどの開発に利用される言語 コンパイル (ソースコードを人間語から機械語に翻訳すること) が必要な言語である	

2. Java と JavaScript の違いを調べてみましょう

	Java	JavaScript
言語の歴史	1. 参照	1995 年にネットスケープコミュニケーションズによって開発された。Java の 4 年後にできた言語。当時は、LiveScript という名前だった。
職業	プログラマー システムエンジニア	フロントエンドエンジニア アプリケーションエンジニア
開発場面	Web サービスや各種アプリケーションを開発するのなら Java 言語	Web 上の表現をより多彩にし、ユーザーの Web 体験をより良いものへと変貌させるのなら JavaScript
共通点	プログラミングの一部の構文は共通している for ループ、while ループなどのループ if や else if などの条件文 Math.pow のような Math ライブラリ コードブロックの区切り記号 { }、コード文の最後に付けるセミコロンなどの共通の構文記号	

3. Java と Python の違いを調べてみましょう

	Java	Python
言語の歴史	1.参照	1990 年グイド・ヴァンロッサム氏が様々なプロジェクトに携わってきた結果「もっと分かりやすい言語があれば」と思い開発が始まった
特性	オブジェクト指向プログラミングに適しており、企業システムや携帯アプリなどの開発に幅広く活用されている	読みやすく簡潔な文法が特徴で、機械学習やデータ解析などの分野で注目されている
将来性	中小企業から大企業まで、多くの基幹システムで使われている。新規開発で使われなくなったとしても、既存システムの保守では必須となる	人工知能、機械学習、IoT などの分野で幅広く活用されているプログラミング言語 AI の重要性は既に高まっており、今後もその需要は拡大していくと考えられている
共通点	Java と Python は、両言語ともに詳細な資料が揃っているという共通点がある Java の公式ドキュメントは体系的に構成されており、ツール使用方法からセキュリティ対策、トラブルシューティングまで幅広い内容が網羅されている 一方の Python も、入門者向けのチュートリアルや質疑応答集など、初心者が理解を深めるのに役立つ情報が豊富に用意されている	